

はじめに	2
------	---

事業概要

1. 事業の背景と目的	4
2. 事業概要	4
3. 事業実施日	5

協議会

1. 第1回東海地域バイオマス資源活用促進協議会	8
2. 第2回東海地域バイオマス資源活用促進協議会	11
3. 第3回東海地域バイオマス資源活用促進協議会	14
4. 東海地域バイオマス資源活用促進協議会の構成員	16

現地調査の結果

1. 木質バイオマスの新たな利活用モデル	
1.1. 草本系バイオマスの利活用・行政発モデル（岐阜県関市の事例）	18
1.2. 草本系バイオマスの利活用・ゴルフ場発モデル（三重県亀山市の事例）	27
1.3. バイオエタノール生産の副産物（リグニン）利活用モデル（三重県名張市の事例）	33
2. 食用油脂のカスケード利用モデル（愛知県岡崎市の事例）	39

アンケート調査の結果

1. アンケート調査の概要	48
2. アンケート調査の結果	
2.1. ゴルフ場	48
2.2. 油脂メーカー	55
2.3. 運送業者	59
2.4. 市町村	64

資料

資料1. ゴルフ場管理業者（三重県）のアンケート票	72
資料2. 油脂メーカー（東海3県）のアンケート票	75
資料3. 運送業者（岐阜県）のアンケート票	78
資料4. 各市町村のアンケート票	80

はじめに

この報告書は、財団法人農政調査委員会が平成22年度の農林水産省の補助事業である「農山漁村6次産業化対策事業に係るバイオマス資源活用促進事業のうちバイオマス資源利用可能性調査（東海地域調査事業）」を東海農政局の採択を受けて実施したものについて取りまとめたものである。

地球環境問題は国際的な課題になりつつあるが、一方原油価格が世界的に高騰していることから、米国などを中心にバイオエネルギー生産への動きが急速な展開を見せている。しかし、バイオエネルギーは、ともすれば食料生産と競合する可能性があることから世界の食料需給を圧迫しかねない側面がある。

温暖多雨でバイオマス資源には比較的恵まれたわが国では、地球環境にも優しいバイオマス資源の重要性がとくに認識され、地域活性化とも関連し、国を中心にその利活用の促進に向けた各種取組が行われてきている。バイオマスタウン構想は、その基本となるものであろうが、すでにかかなりの市町村が策定ないし今後の策定に動き出しており、その構想の下で、民間企業によるバイオマス燃料生産事業をはじめとするバイオマスの利活用が点から線への広がりを見せつつある。しかし、バイオマス利活用に向けた技術開発や、組織体制づくりなどはこれからの課題ともいえ、先進的な事例をみても様々な課題を抱え、苦勞しながら先陣を務めているのが実態であろう。

今回の私どもの調査は、未利用バイオマス資源の中でも食料とは競合せず今後の利活用が見込めるものに焦点を当て、東海農政局管内という限られた地域の中ではあったが、多くの関係者の協力を得て、バイオマス資源の利活用に積極的な取り組みを行っている事例を中心に行った。眠れるバイオマス資源はまだ多いが、本調査がそうした資源の利活用促進に何らかのお役にたつことができればと願うものである。

本調査事業の取りまとめに入った時に東日本大震災とそれに伴う福島原発事故が起こった。大自然の威力、人知の無力さを厭というほど見せつけられた。自然との共生を図ることの重要性、バイオマス資源の利活用の促進の大切さが改めて認識されたのではないだろうか。

最後になったが、本調査事業の実施に当たり、東海農政局をはじめとする関係県、市町村の関係者各位、東海地域バイオマス資源活用促進協議会の淡路和則座長をはじめとする会員各位から頂いたご支援、ご協力に深甚なる感謝を申し上げます。

平成23年3月

財団法人 農政調査委員会